『言語情報学研究報告』No.4（2004）

朝鮮語

趙義成（チョ・ウイソン）
（東京外国語大学講師）
呉文淑（オ・ムンスク）
（東京外国語大学大学院博士前期課程）

1. 朝鮮語の使用地域と人口

朝鮮語は主として朝鮮半島で話されている言語である。朝鮮半島の人口は大韓民国（以下，韓国）約4778万人，朝鮮民主主義人民共和国（以下，共和国）約2255万人，合計約7000万人であるが，この100％に近い人が朝鮮語を母語とするものと思われる。朝鮮半島以外にも中国（延辺朝鮮族自治州・長白朝鮮族自治県など）に約200万人，米国に約200万人，日本に約60万人，旧ソ連（サハリン・沿海州・ウズベキスタン・カザフスタンなど）に約50万人の朝鮮民族が居住する。とりわけ中国・米国に居住する朝鮮民族は朝鮮語を母語とする者が多いものの，日本や旧ソ連に居住する朝鮮民族は朝鮮語を母語とする割合が低いと推測される。朝鮮半島以外の朝鮮語母語話者を含めて，朝鮮語の使用人口はおおよそ7000万人強ほどであると見られ，世界の言語の中で13～15位ほどを占めるものと思われる。

【参考文献】

李翊燮，李相億，蔡琬(2004)『韓国語概説』，東京：大修館書店

2. 朝鮮語の規範・方言概略

2.1. 標準語

朝鮮半島では現在，韓国と共和国という２つの国家がそれぞれ異なった言語政策をとっているため，両者に言語規範がある。

韓国では，1988年に「標準語規定」が定められ，標準語を「教養ある人々があまねく用いる現代ソウル語に定める」（第１項）としている。一方の共和国では，標準語は「文化語」と称されているが，これは「ピョンヤンを中心地として，ピョンヤン語を土台にして作られた」（文化語発音法・総則，1988年）ものであるという。

歴史的に見ると，植民地時代の1933年に朝鮮語学会（現・ハングル学会）が発表した「朝鮮語綴字法統一案」に「標準語はおおよそ現在の中流社会で用いるソウル語とする」（総論２）とあり，ここで標準語が規定された。1936年には同じく朝鮮語学会により「査定された朝鮮語標準語集」という詳細な標準語集が編纂された。このとき，ソウルを含む京畿

道出身者37名と，人口比例による各道代表者36名で構成される標準語査定委員会の投票によって，9457の標準語が査定された。韓国ではこれらがそのまま継承された形となっている。共和国では1954年に制定された「朝鮮語綴字法」に「標準語は朝鮮人民の間で使用される共通性の最も多い現代語の中からこれを定める」（総則４）という標準語の規定がある。明言はなされていないが，共和国のこの標準語規定は，ソウル方言を土台にしつつ，首都であるピョンヤンの方言を若干加味したものと推測される。その後，1966年に制定され1988年に改定された「朝鮮語規範集」も基本的にこの路線を維持しているものと見られる。したがって，若干のピョンヤン方言的な語彙や文法形態が含まれているにせよ，共和国の標準語はピョンヤン方言それ自体なのではなく，ソウル方言を基にしたものであるといえる。

2.2. 朝鮮語の規範的発音

朝鮮語の規範的発音については，韓国においては1988年の「標準語規定」の第２部に「標準発音法」があり，標準語の発音が詳細に規定されている。共和国においても1966年に制定された「朝鮮語規範集」で「標準発音法」が規定されている。

このようにして見ると，韓国・共和国ともに，規範化された標準語と発音法が規定され，それが運用されているという点で，きわめて整理された標準語を持っているということができよう。

2.3. 朝鮮語の方言

朝鮮語は西北方言（平安道方言），東北方言（咸鏡道方言），中部方言（黄海道方言・江原道方言・京畿道方言・忠清道方言），西南方言（全羅道方言），東南方言（慶尚道方言），済州方言の６つの方言に区分される。標準語の基となっているソウル方言は中部方言（京畿道方言）に属する。以下に方言の音的特徴のうち，主要なものを簡単に記述する（朝鮮語の音素と音声については「5. 朝鮮語の母音と子音」を参照）。

(1) 済州方言は，他の方言にない母音音素/ɐ/を持つ。この母音は，音声的には[ɐ̞]もしくは[ɔ̞]である。（/mɐr/「馬」，標準語 말 /mar/）。

(2) 中部方言のうち，忠清道方言と江原道方言の一部は半母音を伴った母音/yɯ/を持つ（/yɯːŋ/「全く」，標準語 영 /yɔːŋ/）。

(3) 東南方言は/e/と/ɛ/，/ɔ/と/ɯ/の区別を持たない。したがって，東南方言では単母音の音素は６種類しかない。

(4) 東南方言と東北方言は鼻母音/~/を持つ（/ãida/ [ãida]「違う」，標準語 아니다 /anida/）。

(5) 東南方言は子音音素/ɾ/を持たない（/sar/「米」，標準語 쌀 /ɾar/）。

(6) 西北方言では/j，c，ʨ/がそれぞれ[ts/dz，ts^h，ts’]で現れる（/je/ [tsɔ]「私」，標準語 저 [tɕɔ]）。

(7) 東南方言，西南方言では/ɯ/が中舌母音[ɨ]で現れる。

(8) 西北方言では/ɔ/が円唇性のより強い[ɔ]で現れる。

(9) 歴史的に/d, t, δ/が口蓋音化した標準語の/j, c, ʤ/が，西北方言では口蓋音せず，本来の音である/d, t, δ/で現れる現象が見られる（/tɔŋgɔdaŋ/「停車場」，標準語 정거장 /jɔŋgɔjaŋ/）。

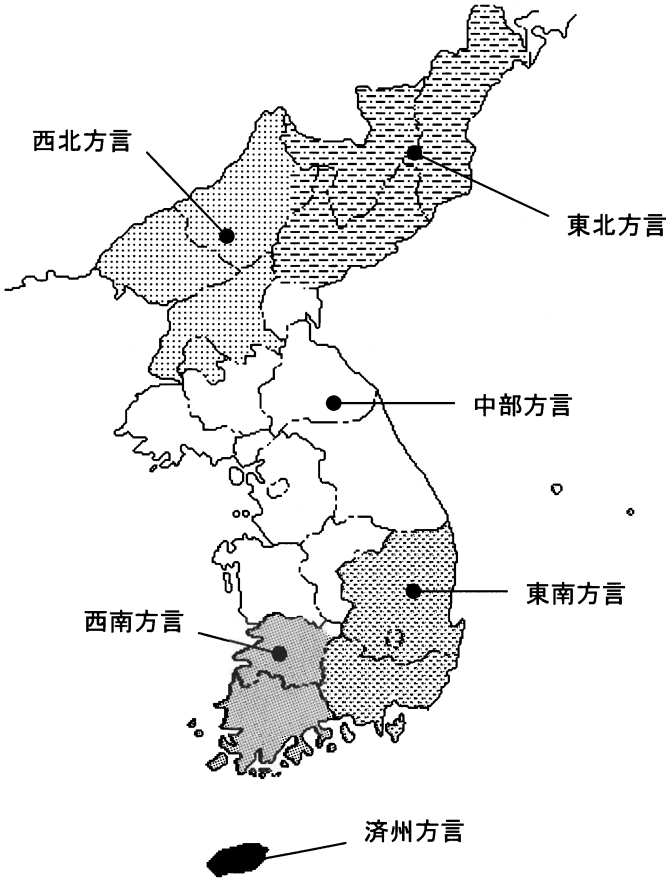
(10) 西南方言，東南方言では標準語における/g, k, γ, h/が/i, y/の直前で口蓋音化し，/j, c, ʤ, s/で現れる現象が見られる（/jimci/「キムチ」，標準語 김치 /gimci/）。

(11) 東北方言，東南方言，および西南方言の一部と中部方言の一部は日本語のような高低アクセントを持ち，音の高低で単語の意味を区別することがある。

	東北方言	北部東南方言	南部東南方言
말 /mar/（馬）	低	高	高
말 /mar/（斗）	高	高	中
말 /mar/（語）	高	昇	低

【朝鮮語の方言区分】

（小倉(1944)，河野(1945)を基に作成）



【参考文献】
小倉進平(1944)『朝鮮語方言の研究』，東京：岩波書店
菅野裕臣(1986)「朝鮮語の方言，標準語，ソウルことば」，『基礎ハングル』第9号，東京：三修社
河野六郎(1945)「朝鮮方言學試攷—「鋏」語考」，『京城帝國大學文學會論纂』11，京城：東都書籍（『河野六郎著作集』1，東京：平凡社，1979 所収）
文化觀光部(1988) “국어 어문 규정집”, 서울:大韓敎科書株式會社
방언연구회(2001) “方言學 辭典”, 서울:태학사
조선 민주주의 인민 공화국 과학원(1956) “조선어 철자법 사전”, 도꾜:학우서방
조선민주주의인민공화국 국어사정위원회(1988) “조선말규범집”, 과학원출판사
한글학회(1989) “한글 맞춤법 통일안(1933～1980)”, 서울:한글학회

3. 朝鮮語の文字と発音

3.1. 朝鮮語を表記する文字

朝鮮語を表記する文字は，李氏朝鮮の第４代国王である世宗が集賢殿の学者である鄭麟趾・申叔舟・成三問らに命じて作らせたもので，1443年に完成し，1446年に世に公布された。公布当時の名称は「訓民正音」（民に訓ふる正しき音）であったが，当初から漢文に対して卑俗の文字であるという意味で「諺文（オンモン）」と呼ばれた。李氏朝鮮の上層階級では漢字・漢文を正式の書き言葉としていたため，朝鮮文字の担い手は長らくの間，女性・子供であった。近代に至ってハングル（「大いなる文字」あるいは「韓の文字」の意であるとされる）と呼ばれるようになり，広く一般に流布した。なお，共和国では現在，朝鮮文字のことを「チョソングルチャ（朝鮮文字）」と呼んでいる。

ハングルの創製に当たっては，中国音韻学の理論を導入しており，また近隣言語の文字なども参照したものと推測される。思想的には陰陽五行や性理学の世界観を反映している。文字の公布に際しては『訓民正音』という名の書物が作られ（一般に『解例本』と呼ばれる），文字の原理，文字の用法，文字作成に至る過程，文字作成者の名前などが詳しく記されている。

子音字母は中国音韻学にのっとり子音を牙音・舌音・唇音・歯音・喉音に分類し，それぞれについて発音器官を模式化して字母を作っており，このことは『解例本』の「制字解」の条に以下のように記述されている。

> 牙音ㄱ象舌根閉喉之形，舌音ㄴ象舌附上顎之形，脣音ㅁ象口形，齒音ㅅ象齒形，喉音ㅇ象喉形。（牙音のㄱ g は舌根がのどを閉ざす形をかたどり，舌音のㄴ n は舌が上あごを付く形をかたどり，唇音のㅁ m は口の形をかたどり，歯音のㅅ s は歯の形をかたどり，喉音のㅇ ’ は喉の形をかたどる。）

母音字母は性理学を反映して天（・），地（—），人（｜）を基本字形とし，これらを組み合わせてさまざまな母音字母を作っている。例えば，字母「ㅏ a」は「ㅣ・」という組み合わせにより作られている（後に「・」は短い横棒で表されるようになった）。

ハングルがユニークな文字とされることの１つは，１つの字母が１つの音を表す単音文字でありながらも，子音字母と母音字母を合わせて１音節を１文字として表すことである。

ㄴ	＋	ㅏ	＋	ㅁ	→	남
n		a		m		nam

上の例に見るように，例えば子音 n を表す字母「ㄴ」，母音 a を表す字母「ㅏ」，子音 m を表す字母「ㅁ」は，アルファベットのようにそれぞれが１つの音を表してはいるが，アルファベットのように単に横に羅列するのではなく，１音節ごとに字母を集めて１文字としている。つまり，ハングルはアルファベットのような単音文字であると同時に，かなや漢字のような音節文字の性質も兼ね備えているのである。

ハングルが作られる以前の時代には，漢字をもって書記手段としていた。それは漢文のみならず，郷札・口訣・吏読など漢字を用いて朝鮮語を表記するものも含まれる。これら漢字を用いた朝鮮語の表記は，漢字の音と訓を複雑に組み合わせながら朝鮮語を表記したものである。郷札は新羅の歌謡である郷歌を表記する手段であり，日本の万葉仮名に似た性質のものである。口訣は漢文を読むときに添えたもので，日本の漢文の送り仮名に似ている。口訣は日本のカタカナと同様に漢字の省略体が用いられ，カタカナと同一の字形を持つものもある。吏読は下級官吏の間で用いられたもので，漢文的要素と漢字を用いた朝鮮語的要素とをおりまぜたものである。

3.2. 字母と発音

以下に母音字母と子音字母の一覧を示す。翻字（transliteration）はハングル字母をアルファベット化したものである。字母が表す音素は/　/内に表記する（以降，同様の方法で翻字，音素を表示する）。それぞれの音素とその音声については，「5. 朝鮮語の母音と子音」を参照のこと。

3.2.1. 母音字母

母音字母は基本母音字母が10個，合成母音字母が11個，合計21個である。下に一覧表を示す。左列が基本母音字母，右列が合成母音字母である。

字母	翻字	音素	名称	字母	翻字	音素	名称
ㅏ	a	/a/	아 ’a	ㅐ	ai	/ɛ/	애 ’ai
ㅑ	ya	/ya/	야 ’ya	ㅒ	yai	/yɛ/	얘 ’yai
ㅓ	e	/ɔ/	어 ’e	ㅔ	ei	/e/	에 ’ei
ㅕ	ye	/yɔ/	여 ’ye	ㅖ	yei	/ye/	예 ’yei

ㅗ	o	/o/	오 ’o	ㅘ	oa	/wa/	와 ’oa
ㅛ	yo	/yo/	요 ’yo	ㅙ	oai	/wɛ/	왜 ’oai
ㅜ	u	/u/	우 ’u	ㅚ	oi	/we/	외 ’oi
ㅠ	yu	/yu/	유 ’yu	ㅝ	ue	/wɔ/	워 ’ue
ㅡ	ɯ	/ɯ/	으 ’ɯ	ㅞ	uei	/we/	웨 ’uei
ㅣ	i	/i/	이 ’i	ㅟ	ui	/wi/	위 ’ui
				ㅢ	ɯi	/ɯi/	의 ’ɯi

（韓国では左列の基本母音字母のみを正規の字母とし，右列の合成母音字母を字母と見なさない。）

ハングル創製当初には，さらに母音字母「ㅇ」（ᄋᆞ /ɐ/ [ʌ]）があったが，現代朝鮮語では用いられない。

3.2.2. 子音字母

子音字母は基本子音字母が14個，合成子音字母が5個，合計19個である。下に一覧表を示す。

字母	翻字	音素	名称（韓国）	名称（共和国）	
ㄱ	g	/g/	기역 gi’yeg	기윽 gi’ɯg	그 gɯ
ㄴ	n	/n/	니은 ni’ɯn	（韓国に同じ）	느 nɯ
ㄷ	d	/d/	디귿 digɯd	디은 di’ɯd	드 dɯ
ㄹ	r	/r/	리을 ri’ɯr	（韓国に同じ）	르 rɯ
ㅁ	m	/m/	미음 mi’ɯm	（韓国に同じ）	므 mɯ
ㅂ	b	/b/	비읍 bi’ɯb	（韓国に同じ）	브 bɯ
ㅅ	s	/s/	시옷 si’os	시읏 si’ɯs	스 sɯ
ㅇ	’/ŋ*	/ŋ/	이응 ’i’ɯŋ	（韓国に同じ）	응 ’ɯŋ
ㅈ	j	/j/	지읒 ji’ɯj	（韓国に同じ）	즈 jɯ
ㅊ	c	/c/	치읓 ci’ɯc	（韓国に同じ）	츠 cɯ
ㅋ	k	/k/	키읔 ki’ɯk	（韓国に同じ）	크 kɯ
ㅌ	t	/t/	티읕 ti’ɯt	（韓国に同じ）	트 tɯ
ㅍ	p	/p/	피읖 pi’ɯp	（韓国に同じ）	프 pɯ
ㅎ	h	/h/	히읗 hi’ɯh	（韓国に同じ）	흐 hɯ
ㄲ	gg	/γ/	쌍기역 ssaŋgi’yeg	된기윽 doingi’ɯg	끄 ggɯ
ㄸ	dd	/δ/	쌍디귿 ssaŋdigɯt	된디은 doindi’ɯt	뜨 ddɯ
ㅃ	bb	/π/	쌍비읍 ssaŋbi’ɯb	된비읍 doinbi’ɯb	쁘 bbɯ
ㅆ	ss	/σ/	쌍시옷 ssaŋsi’os	된시읏 doinsi’ ɯs	쓰 ssɯ
ㅉ	jj	/ζ/	쌍지읒 ssaŋji’ɯj	된지읒 doinji’ɯj	쯔 jjɯ

* 音節頭の「ㅇ」は「’」と翻字し，音節末の「ㅇ」は「ŋ」と翻字することにする。

（韓国では合成子音字母ㄲ，ㄸ，ㅃ，ㅆ，ㅉを字母と見なさない。）

ハングル創製当初には，さらに子音字母「ㅿ」（z /z/ [z]），「ㆆ」（ʔ /ʔ/ [ʔ]），「ㆁ」（ŋ /ŋ/ [ŋ]）があったが，現代朝鮮語では用いられない。

3.2.3. 字母配列

【韓国の字母配列】

子音	ㄱ	ㄲ	ㄴ	ㄷ	ㄸ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅃ	ㅅ	ㅆ	ㅇ	ㅈ	ㅉ	ㅊ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅎ		
	g	gg	n	d	dd	r	m	b	bb	s	ss	’	j	jj	c	k	t	p	h		
母音	ㅏ	ㅐ	ㅑ	ㅒ	ㅓ	ㅔ	ㅕ	ㅖ	ㅗ	ㅘ	ㅙ	ㅚ	ㅛ	ㅜ	ㅝ	ㅞ	ㅟ	ㅠ	ㅡ	ㅢ	ㅣ
	a	ai	ya	yai	e	ei	ie	yei	o	oa	oai	oi	yo	u	ue	uei	ui	yu	ɯ	ɯi	i

【共和国の字母配列】

子音	ㄱ	ㄴ	ㄷ	ㄹ	ㅁ	ㅂ	ㅅ	(ㅇ)	ㅈ	ㅊ	ㅋ	ㅌ	ㅍ	ㅎ	ㄲ	ㄸ	ㅃ	ㅆ	ㅉ		
	g	n	d	r	m	b	s	(ŋ)	j	c	k	t	p	h	gg	dd	bb	ss	jj		
母音	ㅏ	ㅑ	ㅓ	ㅕ	ㅗ	ㅛ	ㅜ	ㅠ	ㅡ	ㅣ	ㅐ	ㅒ	ㅔ	ㅖ	ㅚ	ㅟ	ㅢ	ㅘ	ㅝ	ㅙ	ㅞ
	a	ya	e	ie	o	yo	u	yu	ɯ	i	ai	yai	ei	yei	oi	ui	ɯi	oa	ue	oai	uei

韓国では合成母音字母・合成子音字母は字母として認めてはいないが，辞典の配列は上のように合成字母が配列されている。

共和国の辞典では，音節頭の「ㅇ ’」は子音がないと見て字母の配列に加えていない。「ㅇ ’」で始まる単語は，「ㅉ jj」の次に，母音で始まる単語として配列されている。ただし，音節末の「ㅇ ŋ」は韓国と同じく「ㅈ j」の前に配列されている。

【参考文献】

小倉進平(1964)『増訂補注 朝鮮語学史』，東京：刀江書院
菅野裕臣(1988)「文字・発音概説」，『コスモス朝和辞典』，東京：白水社
河野六郎(1955)「朝鮮語」，『世界言語概説』下巻，東京：研究社
姜信沆(1987:1994) “增補版 訓民正音研究”，서울:成均館大學校 出版部

4. 朝鮮語の音節

朝鮮語の音節は母音（V，二重母音も含む）を中心に構成される。母音は直前に半母音（S）/j，w/を伴いうる。子音（C）は母音の前あるいは後ろに１個立ちうる。音節の頭の子音は初声，母音（半母音と結合した母音を含む）は中声，音節末の子音は終声と呼ばれる。朝鮮語の音節を表にすると以下のとおりである。

開音節	V	이 ’i /i/「歯」
	SV	요 ’yo /yo/「敷布団」
	CV	나 na /na/「私」
	CSV	쇠 soi /swe/「鉄」
閉音節	VC	일 ’ir /ir/ 仕事
	SVC	윤 ’yun /yun/「うるおい」

	CVC	남 nam /nam/「他人」
	CSVC	환 hoan /hwan/「為替」

話し言葉の発音では，まれに VCC や CVCC のように，母音の後ろに子音が２つ続く発音もありうるが（읽- /irg/，젊- /jɔrm/，밟- /barb/ など），それらは極めて限られている。

5. 朝鮮語の母音と子音

5.1. 母音

5.1.1. 母音体系概略

朝鮮語の単母音音素は８個である。また，半母音音素に/y/と/w/があるが，便宜上これら半母音もここで扱うことにする。半母音/y/と結合しうる母音音素は６個，半母音/w/と結合しうる母音音素は５個である。また，下降二重母音が１個ある。

朝鮮語の母音体系を表で示すと以下のとおりである。

単母音		/a/	/ɔ/	/o/	/u/	/ɯ/	/i/	/ɛ/	/e/
半母音との結合	/y/＋	/ya/	/yɔ/	/yo/	/yu/			/yɛ/	/ye/
	/w/＋	/wa/	/wɔ/				/wi/	/wɛ/	/we/
二重母音		/ɯi/							

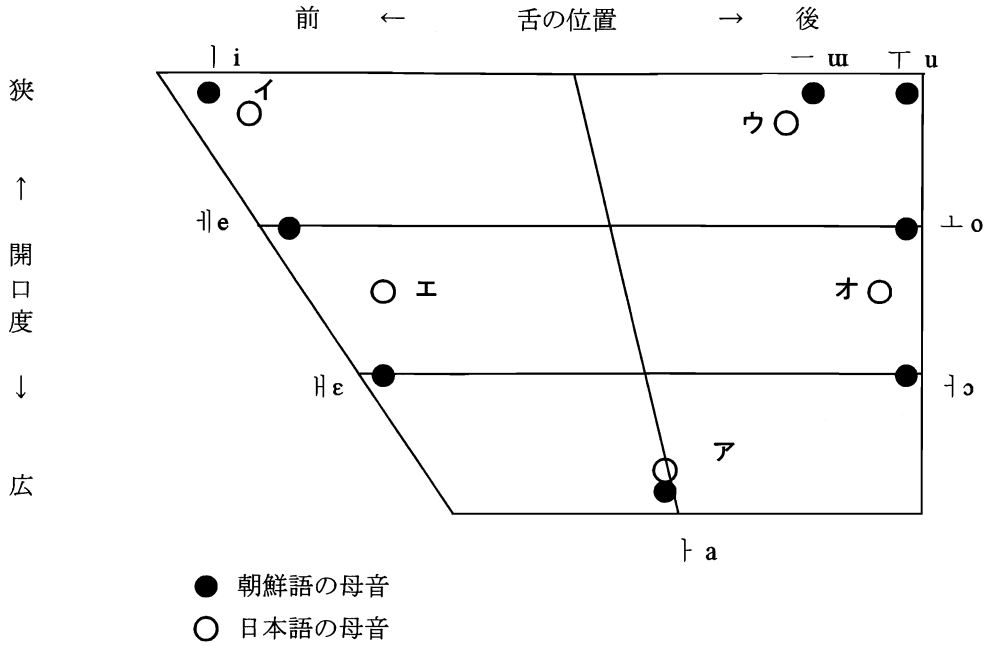
5.1.2. 母音音素目録

(1) 単母音

音素	音声とその環境	用　例
/a/	[a]	아기 ’agi /agi/ [agi]　赤ちゃん
/ɔ/	[ɔ]	어머니 ’emeni /ɔmɔni/ [ɔmɔni]　母
/o/	[o]	오늘 ’onɯr /onɯr/ [onɯl]　今日
/u/	[u]	우리 ’uri /uri/ [uɾi]　我々
/ɯ/	[ɯ]	은 ’ɯn /ɯn/ [ɯn]　銀
/i/	[i]	이 ’i /i/ [i]　歯
/ɛ/	[ɛ]　単語の第１音節	배 bai /bɛ/ [pɛ]　腹
/e/	[e]	에너지 ’eineji /enɔji/ [enɔdʑi]　エネルギー

/ɔ/の音声[ɔ]は，厳密には円唇性が弱い[ɔ̞]，あるいは[ʌ]のやや円唇がかった[ʌ̹]である。

/ɛ/は単語の第１音節においてのみ現れる。第２音節以降では/ɛ/と/e/は区別されない。しかしながら，現在のソウル方言では，老年層においてすら第１音節においても/e/と/ɛ/の区別が失わつつある。/e/と/ɛ/の区別が失われた音は，/e/と/ɛ/の中間的な音（[e̞]もしくは[ɛ̝]）で現れることが多いようであるが，音韻論的な解釈としては，ここでは便宜上/e/と見なすことにする（老年層 게 gei /ge:/「カニ」，개 gai /gɛ:/「犬」に対して，若年層 게 gei /ge/「カニ」，개 gai /ge/「犬」）。



(2) 半母音/y/＋単母音

音素	音声とその環境	用　例
/ya/	[ja]	양식 ’yaŋsig /yaŋsig/ [jaŋɕik’]　洋食
/yɔ/	[jɔ]	여자 ’yeja /yɔja/ [jɔdʑa]　女子
/yo/	[jo]	요리 ’yori /yori/ [joɾi]　料理
/yu/	[ju]	유리 ’yuri /yuri/ [juɾi]　ガラス
/yɛ/	[jɛ]　語頭	얘기 ’yaigi /yɛ:gi/ [jɛ:gi]　話
/ye/	[je]　音節頭	예절 ’yeijer /yejɔr/ [jedʑɔl]　礼節

/ye/は子音の直後の位置に現れない。しかしながら，漢字語においては，本来母音/ye/に始まる漢字音の直前に子音に終わる漢字音が来て/ye/が子音の直後の位置に立つときに，/ye/で現れることがある（문예 mun’yei /mune/～/munye/「文芸」）。

(3) 半母音/w/＋単母音

音素	音声とその環境	用　例
/wa/	[wa]	과자 gwaja /gwaja/ [kwadʑa]　菓子
/wɔ/	[wɔ]	원인 ’uen’in /wɔnin/ [wɔnin]　原因
/wɛ/	[wɛ]　単語の第１音節	왜소 ’oaiso /wɛso/ [wɛso]　矮小
/we/	[we]	회복 hoibog /hwe:bog/ [hwe:bok’]　回復
/wi/	[wi]	위력 ’uiryeg /wiryɔg/ [wiɾjɔk’]　威力

(4) 二重母音

音素	音声とその環境	用　例
/ɯi/	[ɯi]　語頭	의문 'ɯimun /ɯimun/ [ɯimun]　疑問

二重母音/ɯi/は語頭にのみ現れる。しかしながら，ソウル方言では語頭においても二重母音/ɯi/が現れず，しばしば/ɯ/となる（의사 'ɯisa /ɯsa/「医者」）。このような話者においては，二重母音/ɯi/を持たないことになる。

(5) 長母音

長母音（/aː，ɔː，oː，uː，ɯː，iː，ɛː，eː/）は単語の第１音節にのみ現れる。母音の長短は単語の意味を区別するにおいて弁別的であるが，そのような語彙はあまり多くなく，機能負担量は少ない（밤 bam /bam/ [pam]「夜」，밤 bam /baːm/ [paːm]「栗」）。現在のソウル方言では，老年層を除きこの区別は消失し，若年層では概して長母音は短母音化している（밤 bam /bam/ [pam]「栗」）。

/ɔ/の長母音/ɔː/は[əː]で現れる（없어 'ebs'e /ɔːpɡɔ/ [əːps'ɔ]「ない」）。ただし，この音を持つのは老年層のソウル方言に限られ，若年層では短母音と同じ音[ɔ]で現れる（없어 'ebs'e /ɔpɡɔ/ [ɔps'ɔ]「ない」）。

5.1.3. 母音に関する特記事項

5.1.3.1. 母音の異音に関する特記事項

(1) 半母音/y/を伴った母音/yo，yu/は，/y/が円唇化して[ɥo，ɥu]で現れうる。

요리 'yori /yori/ [ɥoɾi]「料理」

우유 'u'yu /uyu/ [uɥu]「牛乳」

(2) 南北の標準発音法では，さらに２つの単母音 ㅚ oi /ö/ [ø]，ㅟ ui /ü/ [y]を認めている（회 hoi /hö:/ [høː] 「なます」，뒤 dui /dü:/ [tyː] 「後ろ」）。しかしながら，現在のソウル方言では多くの場合，この２つを単母音としてではなく，それぞれ半母音を伴った/we/，/wi/として発音される。ここでは現在のソウル方言に従い，これらを/we/，/wi/と見なし，単母音として扱わなかった。

(3) 話し言葉において，/we，wi/の/w/が後続/e，i/の影響を受けて前舌化し，/we，wi/がしばしば[øe，ɥi]として現れる。

쇠 soi /swe/ [søe] 「鉄」

뒤 dui /dwiː/ [tɥiː] 「後ろ」

5.1.3.2. 母音に関するその他の特記事項

(1) /i，wi，u，ɯ/は，激音/p，t，c，k/および摩擦音/s，ɕ，h/の直後において，しばしば無声化する。

피자 pija /pija/ [pʰi̯dʑa]「ピザ」

투고 tugo /tugo/ [tʰu̯go]「投稿」

습기 sɯbgi /sɯbɣi/ [sɯ̟p'k'i]「湿気」

(2) 話し言葉において，/ɯ/は両唇音/b，p，π，m/の直後に立たない。標準発音で/b，p，π，m/の直後に立つ/ɯ/は，話し言葉では/u/で現れる。

블럭 bɯrrog /burrog/「ブロック」< /bɯrrog/

아프다 'apɯda /apuda/「痛い」< /apɯda/

바쁘다 babbɯda /baπuda/「忙しい」< /baπɯda/

심으면 sim'ɯmyen /simumyɔn/「植えれば」< /simɯmyɔn/

(3) 話し言葉において，半母音[ɥ]を伴った[ɥɔ]がありうる。これは，２音節にまたがる半母音と２母音の連続/wiɔ/が，縮約されることによって生じるものである。[ɥɔ]という発音はあるのに，これを表記する方法がないと言う朝鮮語母語話者がしばしば見られることから，この半母音[ɥ]は/ÿ/という新たな音素と見ることができるのかもしれない。

/sagÿɔʃɔ/ [sagɥɔs'ɔ]「付き合った」 < 사귀었어 sagui'ess'e /sagwiɔʃɔ/

/sÿɔra/ [ɕɥɔra]「休め」< 쉬어라 sui'era /swiɔra/

(4) 非老年層の話し言葉において，子音の直後の/w/が弱化する傾向が見られる。

봐요 boa'yo /bwayo/ [pʷayo]「見ます」

됐어 doaiss'e /dweʃɔ/ [tʷes'ɔ]「いいよ」

(5) 話し言葉において，母音/i/あるいは半母音/y/を持つ音節の直前の音節にある母音/a，ɔ，o，u，ɯ/が，/i，y/の影響を受けて前舌化し，それぞれ/ɛ，e，we，wi，i/と発音されることがある。

잡힌다 jabhinda /jɛpinda/「捕らえられる」< /japinda/

먹였다 meg'yessda /megyɔdδa/「食べさせた」< /mɔgyɔdδa/

고기 gogi /gwegi/「肉」< /gogi/

죽인다 jug'inda /jwiginda/「殺す」< /juginda/

느끼하다 nɯggihada /niɣihada/「油っこい」< /nɯɣihada/

5.1.4. 母音調和

母音がいくつかのグループに分かれ，同一単語内では同一グループの母音のみが現れる現象を母音調和という。中期朝鮮語では陽母音/a/，/o/，/ɐ/，陰母音/ɔ/，/u/，/ɯ/，中性母音/i/があり，母音調和が比較的厳密に守られていた。現代朝鮮語では用言の活用や音象徴語などに現れる程度である（音象徴語については「7. 音象徴」を参照）。

用言の活用では，単母音のうち/a/，/o/を陽母音，その他を陰母音とみなす。例えば，用言の第Ⅲ語基は語根の後ろに語基形成母音/a/あるいは/ɔ/が付いて形づくられるが，語根の末母音が陽母音/a/，/o/の場合には陽母音の語基形成母音/a/が後接し，それ以外の母音，す

なわち陰母音の場合には陰母音の語基形成母音/ɔ/が後接する。

받- bad- /bad-/「住む」 → 받아 bad'a /bada/（陽母音）
좁- job- /job-/「狭い」 → 좁아 job'a /joba/（陽母音）
먹- meg'e- /mɔg-/「食べる」 → 먹어 meg'e /mɔgɔ/（陰母音）
울- 'ur- /ur/「泣く」 → 울어 'ur'e /urɔ/（陰母音）

5.2. 子音

5.2.1. 子音体系概略

朝鮮語の子音音素は19個である。これらは調音方法により，閉鎖音・摩擦音・破擦音など15種類の口音，３種類の鼻音，１種類の流音に分類される。口音はさらに平音・激音・濃音の３つのグループに分けられる。これを表に示すと以下のとおりである。

		両唇音	歯音	歯茎音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
口音	平音	/b/	/d/	/s/	/j/	/g/	
	激音	/p/	/t/		/c/	/k/	/h/
	濃音	/π/	/δ/	/σ/	/ζ/	/γ/	
鼻音		/m/	/n/			/ŋ/	
流音			/r/				

平音・激音・濃音の対立は，音節初頭の位置においてのみ存在する。平音/b，d，j，g/は有声・無声の対立がなく，それの置かれる音韻的環境によって有声音あるいは無声音として実現する。すなわち，語頭では無声無気音[p，t，tɕ，k]（弱い気音を伴うことがある），語中の有声音間では有声音[b，d，dʑ，g]として現れる。ただし，平音/s/は有声音間にあっても有声音化しない。激音/p，t，c，k/はいかなる位置においても強い気音を伴った無声有気音[p^h，t^h，$tɕ^h$，k^h]として発音される。濃音/π，δ，σ，ζ，γ/はいかなる位置においても喉頭音化した無声無気音[p'，t'，s/ɕ，tɕ'，k']である。

音節末に立ちうる子音は/b，d，g，m，n，ŋ，r/の７種類のみである。/b，d，g/が音節末に立つときは調音部位の開放を伴わない[p̚，t̚，k̚]である。しかしながら，/b，g/は直後に/σ/が来る場合に，調音部位の開放を伴い[p，k]と発音される（답사 dabsa /dabσa/ [taps'a]「踏査」，식사 sigsa /sigσa/ [ɕiks'a]「食事」）。/d/は直後に/σ/が来る場合に[s]と発音される（젖소 jejso /jɔdσo/ [tɕɔss'o]「乳牛」）。

5.2.2. 子音音素目録

以下に朝鮮語の子音音素の目録を示す。「音声とその環境」には，子音の置かれた音的環境により相補的に現れる代表的な異音を示す。

音素	音声とその環境	用　例
/b/	[p]　語頭	비 bi /bi/ [pi]　雨
	音節末で/σ/の直前	합숙 habsug /habσug/ [haps'uk]　合宿

	[b]	有声音間	나비 nabi /nabi/ [nabi] 蝶
			갈비 garbi /garbi/ [kalbi] あばら
	[p˺]	音節末で直後が/σ/以外	입 ’ib /ib/ [ip˺] 口
/p/	[pʰ]	音節頭	파 pa /pa/ [pʰa] ねぎ
/π/	[p’]	音節頭	빵 bbaŋ /πaŋ/ [p’aŋ] パン
/m/	[m]		머리 meri /mɔri/ [mɔɾi] 頭
			섬 sem /sɔ:m/ [sɔ:m] 島
/d/	[t]	語頭	다 da /da/ [ta] みな
	[d]	有声音間	바다 bada /bada/ [pada] 海
			잔디 jandi /jandi/ [tɕandi] 芝
	[t˺]	音節末で直後が/σ/以外	옷 ’os /od/ [ot˺] 服
	[s]	音節末で/σ/の直前	젖소 jejso /jɔdσo/ [tɕɔss’o] 乳牛
/t/	[tʰ]	音節頭	티 ti /ti/ [tʰi] ほこり
/δ/	[t’]	音節頭	또 ddo /δo/ [t’o] また
/n/	[n]		나 na /na/ [na] 私
			신 sin /sin/ [ɕin] 履き物
/r/	[ɾ]	音節頭	우리 uri /uri/ [uɾi] 我々
		音節末で/h/の直前	설화 serhoa /sɔrhwa/ [sɔɾɦwa] 説話
	[l]	音節末	말 mar /ma:r/ [ma:l] 言葉
		音節頭で/r/の直後	물리 murri /murri/ [mulli] 物理
/s/	[s]	音節頭	소리 sori /sori/ [soɾi] 声
	[ɕ]	音節頭で/i/の前	시간 sigan /sigan/ [ɕigan] 時間
		音節頭で/y/の前	셔츠 syecɯ /syɔcɯ/ [ɕɔtɕʰɯ] シャツ
		音節頭で/wi/の前	쉽다 suibda /swibδa/ [ɕwip˺t’a] 易しい
/σ/	[s’]	音節頭	쌀 ssar /σar/ [s’al] 米
	[ɕ’]	音節頭で/i/の前	씨 ssi /σi/ [ɕ’i] 種
		音節頭で/y/の前	쑈 ssyo /σyo/ [ɕ’o] ショー
/j/	[tɕ]	語頭	저 je /jɔ/ [tɕɔ] わたくし
	[dʑ]	有声音間	그저 gɯje /gɯjɔ/ [kɯdʑɔ] ただ
			먼저 menje /mɔnjɔ/ [mɔndʑɔ] まず
/c/	[tɕʰ]	音節頭	치마 cima /cima/ [tɕʰima] スカート
/ʐ/	[tɕ’]	音節頭	버찌 bejji /bɔʐi/ [pɔtɕ’i] さくらんぼ
/g/	[k]	語頭	개 gai /gɛ:/ [kɛ:] 犬
		音節末で/σ/の直前	식사 sigsa /sigσa/ [ɕiks’a] 食事
	[g]	有声音間	사고 sago /sa:go/ [sa:go] 事故
			문구 mungu /mungu/ [mungu] 文具

	[k˺] 音節末で直後が/σ/以外	더욱 de'ug /dɔug/ [tɔuk˺] さらに
/k/	[k^h] 音節頭	코 ko /ko/ [k^ho] 鼻
/γ/	[k'] 音節頭	깨 ggai /γɛ/ [k'ɛ] ごま
/ŋ/	[ŋ] 非語頭	강 gaŋ /gaŋ/ [kaŋ] 川 종이 joŋ'i /joŋi/ [tɕoŋi] 紙
/h/	[h] 語頭 [ɦ] 有声音間	하나 hana /hana/ [hana] ひとつ 대학 daihag /dɛ:hag/ [tɛ:ɦak˺] 大学 전화 jenhoa /jɔ:nhwa/ [tɕɔ:nɦwa] 電話

	両唇	唇歯	歯 歯茎 後部歯茎	そり舌	硬口蓋	軟口蓋	口蓋垂	咽頭	声門
破裂音	p b p˺ p^h p'		t d t˺ t^h t'			k g k˺ k^h k'			
鼻音	m		n			ŋ			
ふるえ音									
はじき音			ɾ						
摩擦音			s s'						h ɦ
破擦音									
側面摩擦音									
接近音									
側面接近音			l						

歯茎硬口蓋摩擦音	ɕ ɕ'
歯茎硬口蓋破擦音	tɕ dʑ $tɕ^h$ tɕ'

5.2.3. 子音に関する特記事項

5.2.3.1. 子音の異音に関する特記事項

(1) 子音は，母音/i/および半母音/y/の直前において口蓋化を伴い，母音/u，o/および半母音/w/の直前において円唇化を伴う。

기사 gisa /gisa/ [k^jisa]「記事」

수박 subag /subag/ [s^wubak˺]「スイカ」

(2) 激音/p，t，k/は，直後に母音/i/および半母音/y/が来るときに，しばしば[pç，tç，kç]でそれぞれ現れる。

피 pi /pi/ [pçi]「血」

버텨 betye /bɔtyɔ/ [pɔtçɔ]「もちこたえて」

켠다 kyenda /kyɔnda/ [kçɔnda]「つける」

(3) /j，c，ʤ/は[ts/dz，ts^h，ts']として現れる場合がある。ソウル方言では女性の発音に時

おりこれらの音が見られ，西北方言ではこれらの音のほうが一般的である。

(4) 鼻音/m，n/は語頭において出わたり[^{b}，^{d}]を伴い[m^{b}，n^{d}]と現れることがある。

무리 muri /muri/ [m^{b}uɾi]「無理」

누구 nugu /nugu/ [n^{d}ugu]「誰」

(5) 語頭の/h/は，直後に/i，y/が来るときにしばしば[ç]で現れる。

힘 him /him/ [çim]「力」

혀 hye /hyɔ/ [çɔ]「舌」

また，語頭の/h/は，直後に/ɯ/が来るときにしばしば[x]で現れる。

흙 hɯrg /hɯg/ [xɯk']「土」

語頭の/h/はさらに，直後に/w/が来るときにしばしば[ɸ]あるいは[ʍ]で現れる。

휘파람 huiparam /hwiparam/ [ɸip^{h}aɾam]「口笛」

화 hoa /hwa/ [ʍa]「怒り」

(6) /b，j，g/は母音（半母音と結合した母音を含む）間にあって，あるいは/ɾ/と母音（半母音と結合した母音を含む）の間にあって，摩擦音[β]，[ʑ]，[ɣ]で発音されることがある。

갈비 garbi /garbi/ [kalbi]～[kalβi]「あばら」

과자 goaja /gwaja/ [kwadʑa]～[kwaʑa]「菓子」

사과 sagoa /sagwa/ [sagwa]～[saɣwa]「りんご」

5.2.3.2. 子音に関するその他の特記事項

(1) /j，c，ʨ/は半母音/y/と結合しない。つづり字上 jy-，cy-，jjy- となっていても，実際の音声は半母音/y/を伴っていない。

져라 jyera /jɔra/「負けろ」

쳐라 cyera /cɔra/「打て」

쪄라 jjyera /ʨɔra/「蒸せ」

(2) 外来語を除き，/ɾ/は語頭に立たない。漢字語において，音節の頭に本来/ɾ/を持つ漢字音が語頭に立つ場合，母音/i/および半母音/y/が後続するときは脱落し，それ以外の母音が後続するときは/n/に交替する。

이론 'iron /iron/「理論」＜ /ɾiron/

여행 'yehaiŋ /yɔheŋ/「旅行」＜ /ɾyɔheŋ/

노동 nodoŋ /nodoŋ/「労働」＜ /ɾodoŋ/

また，語頭の/n/も，母音/i/および半母音/y/が後続するときは脱落する。

이탄 'itan /itan/「泥炭」＜ /nitan/

여자 'yeja /yɔja/「女子」＜ /nyɔja/

このように語頭の/ɾ/や/n/が脱落したり，/ɾ/が/n/に交替したりする現象を頭音法則と呼んでいる。また，老年層の発音では，外来語においても頭音法則がしばしば適用される。

나이타 na'ita /naita/「ライター」＜ 라이터 ra'ite /raitɔ/

ただし，共和国の標準発音では，語頭の/r/および/n/は常に保たれる。

리론 riron /riron/「理論」　　려행 ryehaiŋ /ryɔheŋ/「旅行」

로동 rodoŋ /rodoŋ/「労働」　　니탄 nitan /nitan/「泥炭」

녀자 nyeja /nyɔja/「女子」。

(3) 話し言葉，[ɕwe]という音声がありうる。この音は外来語においてのみ現れ，쉐 suei とつづられるが，標準語の規定では셰 /sye/ となるべきものであることから，この音声は /sye/ の異音と見ることができる。あるいは/sÿe/と理解することが可能かもしれない（音素/ÿ/については「5.1.3.2. 母音に関するその他の特記事項」を参照）。

쉐이크 suei'ikɯ /syeikɯ/ [ɕweikʰɯ] 「シェイク」＜ 셰이크 syei'ikɯ [ɕeikʰɯ]

(4) 話し言葉において，音節末子音/b/の直後に口音/p，π/が来るとき，音節末子音/d/の直後に口音/t，δ，σ，c，ζ/が来るとき，音節末子音/g/の直後に口音/k，γ/が来るとき，それぞれの音節末子音はしばしば脱落する。このとき，音節末の/b，d，g/が維持されているか否かについては，朝鮮語母語話者自身が明確でないようである。

압박 'abbag /a(b)πag/「圧迫」

윗도리 'uisdori /wi(d)δori/「上半身」

식칼 sigkar /si(g)kar/「包丁」

(5) 話し言葉において，音節末子音/b/の直後に口音/k，γ/が来るとき，音節末子音/b/はしばしば脱落する。

입구 'ibgu /i(b)γu/「入り口」

앞칸 'apkan /a(b)kan/「前の車両」

(6) 話し言葉において，音節末子音/n/は直後の子音の影響により逆行同化する。すなわち，音節末子音/n/の直後に両唇音/b，p，π，m/が来るときは/m/に同化し，音節末子音/n/の直後に軟口蓋音/g，k，γ/が来るときは/ŋ/に同化する。

안마 'anma /amma/「按摩」＜ /anma/

인구 'ingu /iŋgu/「人口」＜ /ingu/

(7) 話し言葉において，音節末子音/m/の直後に軟口蓋音/g，k，γ/が来るとき，/m/は直後の子音/g，k，γ/の影響により逆行同化して/ŋ/と発音される。

삼겹살 samgyɔbsar /saŋgyɔbσar/「豚バラ肉」＜ /samgyɔbσar/

5.2.4. 子音の交替

朝鮮語の子音は前後に来る子音によって音素の配列に制約がある。例えば，책 caig /cεg/「本」に語尾-만 man /man/「…だけ」が結合した 책만 caigman「本だけ」は /cεŋman/と発音される。これは/g/が鼻音の直前に立つことができない子音配列上の制約があり，その結果/g/が/ŋ/に交替したためである。朝鮮語にはこのような子音配列上の制約による子音交替がすこぶる多い。以下にそれらの交替を挙げる。

5.2.4.1. 音韻論的交替

(1) 平音の濃音化：平音/b, d, s, j, g/は口音/b, d, g/の直後に立ちえない。この場合，平音は濃音/π, δ, σ, ζ, γ/に交替する。

국밥 gugbab /gugπab/「クッパ」

합동 habdoŋ /habδoŋ/「合同」

입사 'ibsa /ibσa/「入社」

삭제 sagjei /sagζe/「削除」

옷가게 osgagei /odγage/「服屋」

(2) 口音の鼻音化：口音/b, d, g/は鼻音/m, n/および流音/r/の直前に立ちえない。この場合，口音は鼻音/m, n, ŋ/に交替する。なお，口音の直後に流音が立つ場合については，下記(3)を参照されたい。

덥네 debnei /dɔ:mne/「暑いなあ」

윗니 'uisni /winni/「上の歯」

국내 gugnai /guŋne/「国内」

(3) 流音の鼻音化：流音/r/は鼻音/m, ŋ/の直後に立ちえない。この場合，流音は鼻音/n/に交替する。ただし，共和国の標準発音では流音は鼻音に交替しない。

심리 simri /simni/「心理」（ただし共和国では/simri/）

상륙 saŋryug /sa:ŋnyug/「上陸」（ただし共和国では/sa:ŋryug/）

また，流音/r/は口音/b, d, g/の直後にも立ちえず，同様に鼻音/n/に交替する。このとき，流音の直前の口音も同時に鼻音/m, n, ŋ/に交替する。ただし，共和国の標準発音では流音は鼻音に交替しない。

섭리 sebri /sɔmni/「摂理」（ただし共和国では/sɔmri/）

몇 리 myecri /myɔnni/「何里」（ただし共和国では/myɔnri/）

독립 dogrib /doŋnib/「独立」（ただし共和国では/doŋrib/）

(4) /h/の激音化：/h/は口音/b, d, g/の直後に立ちえない。この場合，/h/は直前の口音と同じ調音位置にある激音/p, t, k/に交替する。

입학 ibhag /ibpag/「入学」

몇 해 myechai /myɔdte/「何年」

역할 'yeghar /yɔgkar/「役割」

(5) /n/の流音化：/n/は流音/r/の直前あるいは直後に立ちえない。この場合，/n/は流音/r/に交替する。

신랑 sinraŋ /sirraŋ/「新郎」

설날 sernar /sɔ:rrar/「正月」

ただし，/n/の直後に/r/が来る場合，/n/と/r/の間に形態素の境界があるときには，/r/が/n/に交替する。しかしながら，共和国の標準発音では，/r/は維持される。

생산량 saiŋsanryaŋ /sɛŋsannyaŋ/「生産量」（韓国の標準発音）

생산량 saiŋsanryaŋ /sɛŋsanryaŋ/「生産量」(共和国の標準発音)

２個の子音配列に伴う音素交替を表にまとめると，以下のとおりである。第１子音は音節末子音，第２子音はその直後に来る音節頭の子音を指す。網かけの部分が音韻交替する組み合わせである。換言すれば，網かけの箇所には子音配列の制約上，「本来の」組み合わせが存在しないことを表す。

第１子音 / 第２子音	/b/	/d/	/g/	/m/	/n/	/ŋ/	/r/
/b/	/bπ/	/dπ/	/gπ/	/mb/	/nb/	/ŋb/	/rb/
/p/	/bp/	/dp/	/gp/	/mp/	/np/	/ŋp/	/rp/
/π/	/bπ/	/dπ/	/gπ/	/mπ/	/nπ/	/ŋπ/	/rπ/
/m/	/mm/	/nm/	/ŋm/	/mm/	/nm/	/ŋm/	/rm/
/d/	/bδ/	/dδ/	/gδ/	/md/	/nd/	/ŋd/	/rd/
/t/	/bt/	/dt/	/gt/	/mt/	/nt/	/ŋt/	/rt/
/δ/	/bδ/	/dδ/	/gδ/	/mδ/	/nδ/	/ŋδ/	/rδ/
/n/	/mn/	/nn/	/ŋn/	/mn/	/nn/	/ŋn/	/rr/
/r/	/mn/*	/nn/*	/ŋn/*	/mn/*	/rr/, /nn/*	/ŋn/*	/rr/
/s/	/bσ/	/dσ/	/gσ/	/ms/	/ns/	/ŋs/	/rs/
/σ/	/bσ/	/dσ/	/gσ/	/mσ/	/nσ/	/ŋσ/	/rσ/
/j/	/bζ/	/dζ/	/gζ/	/mj/	/nj/	/ŋj/	/rj/
/c/	/bc/	/dc/	/gc/	/mc/	/nc/	/ŋc/	/rc/
/ζ/	/bζ/	/dζ/	/gζ/	/mζ/	/nζ/	/ŋζ/	/rζ/
/g/	/bγ/	/dγ/	/gγ/	/mg/	/ng/	/ŋg/	/rg/
/k/	/bk/	/dk/	/gk/	/mk/	/nk/	/ŋk/	/rk/
/γ/	/bγ/	/dγ/	/gγ/	/mγ/	/nγ/	/ŋγ/	/rγ/
/h/	/bp/	/dt/	/gk/	/mh/	/nh/	/ŋh/	/rh/

* 共和国の標準発音では，第２子音の/n/は/r/となる。

5.2.4.2. 形態音素論的交替

朝鮮語は語形が形態音素論的に複雑に交替する現象を持つ。末尾に口音を持つ語幹は，直後に母音で始まる語尾・接尾辞などが来る場合は本来の音を維持するが，語末の位置あるいは直後に口音が続く場合は，音節末に立ちうる子音の制約上，他の音へ交替したり，２子音の連続の場合は１つの子音が脱落したりしうる。以下に個々の交替の事例を示す。

(1) /p/～/b/

잎이 'ip'i /ipi/「葉が」　　잎 'ip /ib/「葉」

(2) /bσ/～/b/

없어 'ebs'e /ɔ:bσɔ/「なく」　　없다 'ebsda /ɔ:bδa/「ない」

(3) /rb/～/b/

밟아 barb'a /barba/「踏み」　　밟다 barbda /ba:bδa/「踏む」

(4) /rp/～/b/

읊어 'ɯrp'e /ɯrpɔ/「吟じ」　　읊다 'ɯbda /ɯbδa/「吟じる」

(5) /rm/～/m/

젊어 jerm'e /jɔrmɔ/「若く」　　젊다 jermda /jɔ:mδa/「若い」

(6) /t, s, σ, j, c/～/d/

맡아라 mat'ara /matara/「受け持て」　　맡고 matgo /madγo/「受け持ち」

벗어라 bes'era /bɔsɔra/「脱げ」　　벗고 besgo /bɔdγo/「脱ぎ」

있어라 'iss'era /iσɔra/「いろ」　　있고 'issgo /idγo/「いて」

맞아라 maj'ara /majara/「合え」　　맞고 majgo /madγo/「合って」

쫓아라 jjoc'ara /ζocara/「追え」　　쫓고 jjocgo /ζodγo/「追って」

(7) /nj/～/n/

앉아 'anj'a /anja/「座り」　　앉다 'anjda /anδa/「座る」

(8) /rb/～/r/

넓어 nerb'e /nɔrbɔ/「広く」　　넓다 nerbda /nɔrδa/「広い」

(9) /rt/～/r/

핥아 hart'a /harta/「なめ」　　핥다 hartda /harδa/「なめる」

(10) /k, γ/～/g/

부엌에 bu'ek'ei /buɔke/「台所に」　　부엌 bu'eg /buɔg/「台所」

밖에 bagg'ei /baγe/「外に」　　밖 bagg /bag/「外」

(11) /gσ/～/g/

넋이 negs'i /nɔgσi/「魂が」　　넋 neg /nɔg/「魂」

(12) /rg/～/g/

읽어 'irg'e /irgɔ/「読み」　　읽다 'irgda /igδa/「読む」

このような形態音素的な交替を効率よく表記に反映させるために，現在の正書法は形態音素論的な表記法を取っている。正書法における音節末子音の表記方法は下に示すとおり多様であり，それゆえつづり字が実際の発音と異なることがしばしばある。

音素	正書法における音節末子音の表記方法
/b/	ㅂ，ㅍ，ㅄ，ㄼ
/d/	ㄷ，ㅌ，ㅅ，ㅆ，ㅈ，ㅊ，ㅎ
/g/	ㄱ，ㅋ，ㄲ，ㄳ，ㄺ
/m/	ㅁ，ㄻ

/n/	ㄴ, ㄵ, ㄶ
/ŋ/	ㅇ
/r/	ㄹ, ㄺ, ㄻ, ㄼ, ㄽ, ㄾ

【参考文献】
梅田博之(1983)『韓國語의 音聲學的 硏究』, 서울：螢雪出版社
梅田博之(1989)「朝鮮語」,『言語学大辞典』第２巻, 東京：三省堂
菅野裕臣(1988)「文字・発音概説」,『コスモス朝和辞典』, 東京：白水社
河野六郎(1955)「朝鮮語」,『世界言語概説』下巻, 東京：研究社
李基文, 金鎭宇, 李相億(1984) "國語音韻論", 서울:學硏社
허웅(1985:1997) "국어 음운학", 서울:샘문화사
Холодович, А. А.(1954) *Очерк грамматики корейского языка*, Москва:Издательство литературы на иностранных языках

6. 朝鮮語のプロソディー

6.1. アクセント

現代朝鮮語ソウル方言では, 音の強弱や高低の違いが単語の意味を弁別するのに関与していない。その意味では, 現代朝鮮語ソウル方言は「アクセントを持たない言語」だと言うことができる。

過去に朝鮮語は高低アクセントを持つ言語であった。中期朝鮮語（15世紀中葉～16世紀末）は低調（L）と高調（H）の２つのレベルを区別し, 昇りアクセント核を有するアクセント体系を持っており, アクセントが単語の意味を弁別するのに関与していた（例えば, 말 mar /mar/「言葉」はLH型のアクセント, 말 mar /mar/「升」はH型のアクセント)。現代朝鮮語においても, 東南方言と東北方言には弁別的なアクセント体系があり, これらの方言の間, あるいはこれらの方言と中期朝鮮語との間には, 単語のアクセントの対応関係が認められる（現代朝鮮語の方言のアクセントについては,「2.3. 朝鮮語の方言」も参照のこと)。

6.2. ピッチ

ソウル方言は, 弁別的な高低アクセントを持たないとはいえ, 音の高低が全くなく平坦に発音されるわけではない。弁別的ではないが, そこには一定の音の高低が存在し, ソウル方言話者であればおおむね一様の高低パターンが認められる。このような高低パターンに抵触すると, 言語音としての自然さが失われる。

この分野の研究は十分になされていないため, 確かな結論を得るには至っていないが, 例えば２音節の単語を見た場合, 第１音節の頭子音が激音, 濃音, /s, h/であるときは第１音節のピッチが高く, それ以外の子音のとき, あるいは第１音節が母音・半母音で始ま

るときは第１音節のピッチが低いパターンを示すことが知られている。

第１音節が高い：　평화 /pyɔŋhwa/「平和」　꼬리 /γori/「しっぽ」
　　소리 /sori/「声」　하루 /haru/「一日」
第１音節が低い：　아들 /aduɯr/「息子」　가슴 /gasɯm/「胸」
　　나라 /nara/「国」　리얼 /riɔr/「リアル」

6.3. イントネーション

6.3.1. 文末のイントネーション

文末のイントネーションは，おおむね平叙文では下がり調子，疑問文では上がり調子で現れる。しかしながら，文末のイントネーションは，文末に現れる述語の形や文中における疑問詞の有無などにより，現れ方が異なる。

文末の述語が平叙形/疑問形の対立を持たない形式の場合は，平叙文で常に下がり調子，疑問文で常に上がり調子となる。しかし，文末の述語が平叙形/疑問形の対立を持つ形式の場合，疑問形は上がり調子でも下がり調子でもありうる。

【述語が平叙形/疑問形の対立を持たない形式】

（平叙文）여기 있어요. /yɔgi iσɔyo/ ↘「ここにいます。」

（疑問文）여기 있어요? /yɔgi iσɔyo/ ↗「ここにいますか。」

【述語が平叙形/疑問形の対立を持つ形式】

（平叙文）여기 있습니다. /yɔgi iσɯmnida/ ↘「ここにいます。」

（疑問文）여기 있습니까? /yɔgi iσɯmniγa/ ↗ ↘「ここにいますか。」

疑問詞を含む疑問文においては，疑問詞が「未知」を表す場合，イントネーションは上がり調子と下がり調子の２通りで現れうるが，疑問詞が「不定」を表す場合，イントネーションは常に上がり調子で現れる。

어디 있습니까? /ɔdi iσɯmniγa/ ↘ ↗「どこにいますか。」

어디 있습니까? /ɔdi iσɯmniγa/ ↗「どこかにいますか。」

また，反語などの修辞疑問文は，通常，下がり調子で現れる。

여기 있지 않습니까? /yɔgi idζi anσɯmniγa/ ↘「ここにいるではありませんか。」

6.3.2. 文中のイントネーション

文中では，ポーズが置かれる場合にポーズの直前に特徴的なイントネーションが現れる。ソウル方言では，ポーズの直前の音節が高い音で現れる現象が見られる。このとき，ポーズの直前の高い音節は，やや下降調子の音である。

만약에　한국에　오실 때는↘，　저한테　꼭　연락　주세요.

/ma:nyage　ha:nguge　osir　δεnɯn　jɔhante　γog　yɔrrag　juseyo/

「もし韓国にいらっしゃるときは，私に必ず連絡ください。」

アナウンサーの話や講演など，格式のある発話においては，ポーズの２つ前の音節が高

く現れる。この場合，ポーズの直前の音節が上がり調子になる場合がある。

실험　결과에　의하면，　다음과　같은　사실이 밝혀졌습니다.

/sirhɔm gyɔrgwae　ɯihamyɔn　daɯmgwa gatɯn　sa:siri　barkyɔjɔdɔɯmnida/

「実験結果によると，次のような事実が明らかになりました。」

【参考文献】

早田輝洋(1999)『音調のタイポロジー』，東京：大修館書店

이호영(1996) “국어음성학”, 서울:태학사

Ramsey, S. R.(1978:1989) *Accent and Morphology in Korean Dialects*, 서울:탑출판사

7. 音象徴

朝鮮語は音象徴語がひじょうに豊富である。それらの音象徴語は，母音や子音を交替させることにより，微妙なニュアンスの違いを表す。

7.1. 音象徴語における母音

音象徴語では母音調和に基づいた陽母音（/a，o/）と陰母音（/ɔ，u/）の交替により，以下のような微妙なニュアンスの違いを表す場合がある（母音調和については「5.1.4. 母音調和」を参照）。

陽母音：小，少，弱，狭，薄，明，粗，美，善，軽，若など
陰母音：大，多，強，広，厚，暗，密，醜，悪，重，老など

朝鮮語の母音調和においては陽母音/a/と陰母音/ɔ/が対応し，陽母音/o/と陰母音/u/が対応するが，音象徴語においては以下のような対応も見られる。

陽母音	/a/		/o/	/ɛ/
陰母音	/ɔ/	/ɯ/	/u/	/i/

/a/－/ɔ/

파랗다 parahda /parata/「青い」（鮮やかに真っ青だ）

퍼렇다 perehda /pɔrɔta /「青い」（鈍く真っ青だ）

/a/－/ɯ/

살짝 sarjjag /sarζag/「すっと」（軽快に素早く行なう様子）

슬쩍 sɯrjjeg /sɯrζɔg/「さっと」（人知れず素早く行なう様子）

/o/－/u/

꼴깍　ggorggag /γorγag/「ゴクリ」（少量の水などを呑み込む様子）

꿀꺽　ggurggeg /γurγɔg/「ゴクリ」（水などを呑み込む様子）

/ɛ/－/i/

생생하다 saiŋsaiŋhada /sɛŋsɛŋhada/「新鮮だ」

싱싱하다 siŋsiŋhada /siŋsiŋhada/「みずみずしい」

7.2. 音象徴語における子音

子音は平音/濃音/激音の対立により微妙なニュアンスの違いを表す。濃音は堅く密で鋭い印象を与え，激音は鈍く激しい印象を与える。

뱅뱅 baiŋbaiŋ /bɛŋbɛŋ/「くるくる」

뻥뻥 bbaiŋbbaiŋ /pɛŋpɛŋ/「くるくる」（小さい物が勢いよく回る様子）

팽팽 paiŋpaiŋ /pɛŋpɛŋ/「くるくる」（小さい物が素早く回る様子）

音節末子音は，口音/鼻音/流音の対立により微妙なニュアンスの違いを表すことがある。

달가닥 dargadag /dargadag/「がたっ」

달가당 dargadaŋ /dargadaŋ/「がたん」

방긋 baŋgɯd /baŋgɯd/「にこっ」

방글 baŋgɯr /baŋgɯr/「にこり」

擬声擬態語においては，上記の母音の交替，子音の交替が組み合わさり，ひじょうに多様な擬声擬態語が作られる。例えば，微笑む様子を表す擬声擬態語は，中辞典に登録されているものでも，以下のように多種多様である。

방긋 baŋgɯs /baŋgɯd/	빵긋 bbaŋgɯs /paŋgɯd/
벙긋 bɔŋgɯs /bɔŋgɯd/	뻥긋 bbɔŋgɯs /pɔŋgɯd/
방글 baŋgɯr /baŋgɯr/	빵글 bbaŋgɯr /paŋgɯr/
벙글 bɔŋgɯr /bɔŋgɯr/	뻥글 bbɔŋgɯr /pɔŋgɯr/
뱅긋 baiŋgɯs /bɛŋgɯd/	뻥긋 bbaiŋgɯs /pɛŋgɯd/
빙긋 biŋgɯs /biŋgɯd/	삥긋 bbiŋgɯs /piŋgɯd/
방실 baŋsir /baŋsir/	빵실 bbaŋsir /paŋsir/
벙실 bɔŋsir /bɔŋsir/	뻥실 bbɔŋsir /pɔŋsir/
방싯 baŋsis /baŋsid/	빵싯 bbaŋsis /paŋsid/
벙싯 bɔŋsis /bɔŋsid/	뻥싯 bbɔŋsis /pɔŋsid/　などなど…

【参考文献】

青山秀夫(1991)『朝鮮語象徴語辞典』，東京：大学書林

野間秀樹(1990)「朝鮮語のオノマトペ—擬声擬態語の境界画定，音と形式，音と意味について—」，『学習院大学言語共同研究所紀要』13，東京：学習院大学言語共同研究所

正　誤　表

頁	行	誤	正
30	下	上あごを付く形を	上あごに付く形を
37	2	[p^{w}ayo]	[p^{w}ajo]
42	17	話し言葉,	話し言葉において
49	10	방긋 baŋguɯd	방긋 baŋguɯs